

織田信長の朽木越え

信長最大のピンチ

元龜元年（1570）4月20日、信長は羽柴秀吉や徳川家康ら3万ほどの軍勢を率いて、越前の朝倉氏を攻めるために京都を出発しました。高島市内の田中城に宿泊した後、今津から九里半街道を通って敦賀に侵攻し、手筒山城・金ヶ崎城・疋檀城を陥落させ、一気に木の芽峠を越えて一乗谷に向かおうとしていたとき、妹、お市の嫁ぎ先であった湖北の浅井長政が裏切り、朝倉氏と手を組んだという知らせが信長のもとに届きます。思ってもみなかった裏切りに信長軍は北と東から挟み撃ちされることになり、信長は絶体絶命のピンチに陥りました。

活路は朽木越えにあり

4月27日、信長は京都への撤退を決意し、秀吉・家康らに後を任せてわずかな兵を連れて丹後街道を南下、朽木を目指しました。当時、小浜から南には信長に敵対する武田氏、大飯には武藤氏があり、また、琵琶湖岸は浅井・朝倉の手が回っていたた

め、実質朽木を抜ける街道だけが残された退路でした。ただ、道中には朽木の領主 朽木元綱の所領があり、朽木氏を含む高島七頭たちは当時浅井氏の勢力下にあったため、元綱が信長の通行を許可する確証は全くありませんでした。

しかし、朽木元綱は信長の領内通過を認め、さらには手厚く接待までしたといえます。江戸時代に書かれた朽木の長谷川家に伝わる古文書には、朽木元綱が警備の兵を連れて道案内したこと、朽木下市場の圓満堂で信長が休憩したこと、その時に長谷川家の先祖がお茶とお菓子を献上し、お礼に鹿革の袴と銀製の箸をもたらしたことなどが記されています。おかげで信長は葛川から大原を抜け、



圓満堂跡

4月30日には無事に京都へたどり着くことができました。この時、もし元綱が信長の通行

を許さなければ、信長をはじめ秀吉や家康のその後の運命は大きく変わっていたことでしょう。元綱がなぜ信長を助けたのか詳しい理由は分かっています。朽木家は代々足利將軍の近習を務め、さらには足利義晴・義輝という2人の將軍が朽木で避難生活を送っていたことから、室町幕府とも非常に近い関係にあり、そのため將軍 義昭の後ろ盾であった信長を助けたのではないかと考えられています。朽木には、今も信長が隠れていたといわれる「信長の隠れ岩」や、休憩したとされる圓満堂の跡地など、信長の足跡を伝える場所が残っています。

中江藤樹・たかしミュージアムでは、4月から信長の朽木越えを含む「高島の戦国時代」に関する資料を多数展示予定です。どうぞご期待ください。

問 中江藤樹・たかしミュージアム
(32) 03330



信長進行図



ミュージアム X



ミュージアム YouTube

編集 雑感

本号では「二十歳のつどい」の様子をお伝えしました。一生に一度の節目を迎えられた皆さんが、晴れやかな笑顔でその瞬間を共有する姿がとても感動的でした。新成人の皆さんが、これからの人生に立ち向かう力を育み、地域の未来を切り拓く存在になることを心より願っています。また、新成人の皆さん、保護者の皆さん、本当におめでとうございます！(M)

広報たかしま

令和8年

2

月号

No.313

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
滋賀県高島市新旭町北畑のろ番地

0740(25)8000(代)
https://www.city.takashima.lg.jp
t-info@city.takashima.lg.jp